



NO.

# いちよう

発行所

待乳山 本龍院

〒111 東京都台東区浅草7-4-1

-0032 TEL. 03(3874)2030

FAX. 03(3874)5280

## お参り作法

住職 平田真純

先日、お参り作法説明会を開催させていただきましたところ、百五十名ほどの皆様にお集まりいただきました。これだけ多くの方々のご希望のあったことを心強く思いましたと同時に、神仏を大事にされようという方が本当にたくさんいらっしゃるのだということをも改めて確認させていただきました。次回催すときは、より良い内容にしていきたいと思っております。

ところで参拝作法というからには、いかに神仏に誠意を示すか、失礼のない立ち居振る舞いをするかが基本となるのですが、それだけでなく、いかに周りの方々にも迷惑をかけないようにするか、好感を与えるかも重要なところですよ。

待乳山の本堂には、多くの方々がお参りに見えられますが、みなそれぞれ心を引き締めて祈願されています。他の参拝者に迷惑をかけるようなことになれば、聖天様もお喜びにならないでしょう。たとえば目上の方のお宅へ伺って、そこで他の客に迷惑をかければ、主人も顔をしかめ、頼み事も聞いていただけませんでしょう。

ただ、私たち凡人は、不備や粗相があっても自分では気が付かないことも多いと思います。

本堂内や境内でのマナーで、気が付いた点を数点あげさせていただきます。

一、お水屋や線香を供える香炉の前などでは、所作が終わったら、速やかに移動しましょう。

一、大根や花を供える御宝前真ん前で長々と参拝しますと、後ろでお参りされている方の迷惑になります。供え終わりましたら速やかに後方へ移動し、そこでゆっくりと参拝いたしましょう。

一、堂内では、声を出してお経や真言を称えないようにしましょう。

一、堂内では私語は慎みましょう。必要な会話は、なるべく小さな声を心がけましょう。

初めて参堂される方などは、一心に祈念を込めている皆様の真摯な態度や美しい姿勢に感動します。それは私たち僧侶が理屈を並べるよりも素晴らしい布教になります。世の中のためにもより良い参拝作法・マナーを心がけていただければ幸いです。

# 待乳山便り

## 安全講特別公演 報告

四月十五日、安全講終了後、大広間にて柳家千寿さん(落語家)、平田住職(ギター)、内村和彦さん(ギター)、金田洋一さん(ベース)、深田有一さん(ドラム)、吉田一行さん(MC)による落語とバンドのライブ『待乳山笑点』が催されました。



平成二十七年の安全講から始まった『待乳山笑点』も、すっかり待乳山の定番公演となり、今年で第三回の開催となりました。当日はあいにく雨でしたが、たくさんのお聴衆が大広間に集まりました。

最初にバンドの皆さんが演奏で会場を盛り上げると柳家千寿さんが登場。合間に音楽を挟みながら、小喃を披露し、大広間は何度も笑いに包まれていました。

## 香席 投扇興体験会 報告

とうせんきょう

五月五日、小畑社中、東都浅草投扇興保存振興会、浅草観光連盟協力の下、香席・投扇興の体験会を開催いたしました。開会式の後、六十名の参加者を二組に分け、洗心閣三階にて香席、大広間にて投扇興を交代で体験していただきました。

香道とは、香を炊きその香を楽しむ芸事です。今回の席では、同じ香りを当てる源氏香と呼ばれる遊びを行いました。静かな空気の中、皆様、香の奥



深い香りに心を傾け、じつくりと鑑賞されていました。投扇興は桐箱の上の的に扇を投げ、その形の点数を競う競技です。毛氈の中央に的を置き、二名が向き合って対戦しました。思い通りに飛ばない扇に悪戦苦闘。終始にぎやかな雰囲気の時折歓声が上がること。どちらの席も普段触れることのない伝統文化に盛り上がっていました。

## お参り作法説明会 報告

五月六日、正しい作法を学びたいという方のためのお参り作法説明会を開催いたしました。



連休の最終日ということもあり、なんと百五十名を超える参加者が境内に集まりました。まずは境内から本堂に向かうまでの流れを確認した後、本堂でのお勤めの仕方について、住職より実修を交えた丁寧な説明がありました。特に最後の質疑応答では、自分の行っている作法が正しいものか確認したいなど、たくさんのお質問が住職に寄せられていました。

## 信徒総代 世話人 退任

左記の信徒総代、お世話人の方々がご退任されました。今まで当山の発展のため、ご尽力いただき、ありがとうございました。

信徒総代 大井 光晴 様  
世話人 白井美智子 様



## 六月御縁日大法要 行事紹介

### 歓喜尊地蔵尊供養会

六月二十四日(日) 午前十一時

講金 一、五〇〇円

六月二十四日、地蔵供養会を執行いたします。参道の入り口と中庭の二か所の地蔵堂をご供養いたします。

お地蔵様は正しくは地蔵菩薩といい、お釈迦様が亡くなり、弥勒菩薩様が現れるまでの仏様が不在の期間、全ての世界の衆生を救済する菩薩です。

当山でお配りしている地蔵経は正式には、「地蔵菩薩本願経」というお経の中の「囑累人天品」という章になります。

このお経の中では、衆生を救う請願を立てられたお地蔵様のお姿を拝見し称えることで、病気にかからない、人から尊敬されるなどの二十八種類の利益を受けることができると説かれています。

さらに天龍鬼神がお地蔵様を供養すれば、悪行が消え、運命を見通し悟りを開けるなどの七種の利益が得ることができそうです。

地蔵供養会での地蔵経を皆様でお称えし、お地蔵様をご供養いたします。より一層お地蔵様とご縁を深めましょう。また講にお申込みの方には腕輪念珠を授与いたします。ご家族の方も合わせてお申し込みください。



# 大聖歡喜天利生記

神仏が衆生に利益を与えることを利生と呼びます。かつての当山誌『歡喜』に掲載された信仰体験談をシリーズで紹介いたします。

先月号に引き続き、本堂の畳替えを今でもされている佐々木豊店の先代のお話です。

## 私の信仰 ②

(歡喜十八号 昭和四十八年発行より)

### お守りと軍隊

佐々木秋雄

東京が焼かれて一ヶ月目に招集令状が来て、三十九才にして初めて東部六部隊に入隊することになりました。私はこの時千人針の腹巻の中に聖天様のお守りを入れて入隊したのです。

横浜港北の東六の練習所にある南小舎につれて行かれて毎日雨天の日も練習練習の日を送って来ました。真夜中前一時、突然の出動命令が出て、駅より出発。電車に乗り、どこに行くのかと不安でした。それでも私は信仰の気持が有りますので、心配することは無いと心の中できめて居りました。着いた所は、群馬県八幡村の達磨寺でした。この寺は第一総軍の通信本部を作る予定の場所でした。そこで八月十五日の終戦の日を迎えたのです。その後も毎日毎日工事が続いて、九月中旬によく復員命令が出たのです。

九月末に復員して帰ったのですが、入隊より復員まで半年の期間、お守りのお陰で色々救われました。そうして無事帰ってお礼参りが出来たのです。

私は復員して半年、二十一年三月の春、初めて菩提寺にお参りに行ったのです。

「実は、私の伯母は同じ町内に住んで玩具や子供の乗物の商売をして居ましたが、三月十日の空襲で一家皆焼け死んだのです。そのお墓は、私の墓の前に有ります。これから先、伯母の墓の供養をやらなければ、無縁になってしまいます。供養するのは、畳屋だけでも出来ませんが、伯母が手広くしていた商売を私の手でやって供養したら今亡き仏もきつと喜んでくれるのではないでしょうか。」と心に考えていたことを任職に相談しました。任職も喜んで下さって「是非やつてくれ。」と言われました。私は玩具の道を始めました。

これまでとまったくちがう仕事だけに、苦労に苦労を重ねて翌二十二年の春、下職とのつながりも出き、ようやく製品が出来始めたのです。その頃の製品は物価庁に出さなければ売ることが出来なかったのです。それですから、私も物価庁に査定に出したのです。その会場が日本橋の高島屋でした。査定して適定価格を付ける査定人が、不思議なことに叔母と、其の上デパートとも取引していた問屋の主人だったのです。

そうして先方からは是非取引をと言われ、私の人生の一大転機となりました。新たな生きがい

が生まれて、いわゆる二足のわらじを履き始めました。そうして都内全部のデパートに納品出来るようになったのは、これ皆聖天様が急場を救ってくれたのでしよう。有難く思っています。

その後、体育用品の吊輪、跳馬の製造をして三足、四足のわらじをはき、勢能体育用品株式会社と取引しました。その間にも幾度も救われて居ます。

### 待乳山仮堂建設の思い出

終戦後間もなく、焼跡の中にお山が仮堂を建てるに当り、私は是非畳を都合してくれと頼まれました。お陰をいただいただけに何としても本場の畳を入れたいと思いました。何しろ、当時は何もかも品不足で統制と盗難の盛んな時です。中々品物も送ってもらえない時代でした。産地の岡山へ電報で頼んだのですが、送ってくれるか、とても心配でした。その内、聖天様宛で荷物が届いたのです。早速開けてみると二つに折った畳表や縁や糸まで入っていたんです。

嬉しかったですね。糸などとても手に入りそうもない良いものでした。神様のお力です。あの時は本当に印象に残っています。以来毎年ご本堂の畳替えをさせていただいています。(次号に続く)



# 六月行事予定

## 御縁日大法要

### 地藏供養会

六月二十四日(日) 午前十一時

講金 一、五〇〇円也

歡喜地藏様をご供養し、特にお子様が無病息災を祈願いたします。

### 朝まいり会

六月一日〜七日 午前八時から八時半

会費 五〇〇円也

都合のよい日に、ご参加くださっても結構です。最終日には読誦終了後に食事作法を行います。

### 日曜勤行

六月十日(日) 午前九時

参加費 無料

初心の方も気軽にご参加いただけるおつとめの会です。

### 写経の会

六月十日(日) 午前十時/午後一時

会費 五〇〇円也

心を落ち着かせて写経することで、日常を離れ、自分を見つめ直しましょう。

### 坐禅の会

六月二十三日(土) 午後五時〜七時 定員三十名

参加費 五〇〇円也

本堂にて坐禅を行います。定員になり次第、募集を締め切らせていただきます。

### 合同大般若法要

六月二十五日(月) 午前十一時

法要料 五、〇〇〇円也

心願が成就し、より一層の御加護を頂くために、皆さんと一緒に仕上げする御礼の法要です。

### 七月の行事

#### 御縁日大法要

#### 出世観音供養会

七月十七日(火)

午前十一時

講金 一、五〇〇円也

#### 常香講大法要

七月二十日(金)

午前十一時

講金 一、五〇〇円也

### 祈祷のご案内

聖天様独特の供養法である浴油供は、密教の中で最も深秘の法とされています。この供養法は聖天様のお力により一層高められ、私どもが不可能と思われるような願い事でも、尊天様の不思議方便のお働きを得て、必ず成就させて頂けるのであります。

当山ではこの浴油祈祷を、毎朝開堂と同時に厳修しております。寺務所にて受け付けておりますので、お名前とお願いの内容、祈祷期間をお伝え下さい。

またご遠方の方やお急ぎの方は、お電話やお手紙でも受け付けております。どうぞお申込みください。

### 祈祷料

別座祈祷 壱万円(一週間)  
浴油祈祷 三千五百円(一週間)  
華水供 五百円(一日)

### 法要案内

当山では予約にて法要を行うっております。寺務所にてお問い合わせください。

#### 百味供養 法要料 八万円

沢山のお供物をお供えし、出仕の僧侶が声明をお唱えすることで、尊天さまに御礼の供養をいたします。

#### 大般若法要 法要料 五万円

所願成就御礼の法要として、大般若経六百巻を転読いたします。

#### 自動車加持 法要料 壱万円

当院にてお車のお加持をいたします。当日はお車にてお越しください。

皆様からのご質問、お知りになりたいことを受け付けております。ご意見やご質問は [ityou@matsuchiyama.jp](mailto:ityou@matsuchiyama.jp) までメールをお送りください。